

古河

蔵と家刻と雪華のまち



蔵回遊招福マップ

古河の歴史

旧石器～縄文時代	古河の西側まで東京湾が入り込んでいた。利根川、渡良瀬川、思川の谷に土塁集落が形成される。
奈良時代	万葉集に「こが」が登場する。「麻久良我の吾我の渡りのから楨の吾高しもの深なるへゆか及に」、「浦はずして行かぞ惜しむ麻久良我の許我書ふ船にも道はゆかも」（巻十四）
鎌倉時代	源頼朝の御家人・下河辺平行（頼原秀郷の子孫）が古河に初めて築城したと伝わる。
南北朝時代	「古河」という表記に変わる。
室町時代	康正元年（1455）、当時は鎌倉公方であった足利成氏が古河に移り、古河公方として北関東の中心的存在になる。
江戸時代	徳川幕府の有力譜代大名が配置され、古河城を中心とした城下町として栄えと共に、日光街道・奥州街道の宿場町として発展する。
明治・大正時代	製糸業が興り、昭和前半まで古河の代表的な産業として続く。明治7年（1874）に古河城が取り壊され、城域のほとんが渡良瀬川の河川敷に取り込まれる。
昭和時代	茨城県西部、栃木県南部、埼玉県北部を商圏として商業都市として現在に至るまで発展する。
現在	平成17年（2005）9月に、隣接の総和町、三和町と合併する。

アクセスマップ



2010年3月発行

編集 古河市農活用市民協議会
 コアまちづくりフォーラム株式会社
 編集協力 エコまちづくりフォーラム株式会社
 問い合わせ 株式会社 雪華 <http://www.yukihana.com/>
 〒306-0023 茨城県水戸市本町4丁目1番1号 まちなか再生実行委員会
 TEL 0280-31-7611 FAX 0280-31-7613 MAIL yukihana@cocorinet.ne.jp

古河の歴史 蔵・建築物

古河に邸蔵や建築物

古河駅西口地区は、古河城を中心とする城下町として、また古河藩時代に日光街道の宿場町として栄えたことから、多くの蔵が建てられ、現在でも約120棟程度残っています。

市内を歩くと、昔の名残りを今に留める通りや建築物など所々で出会うことができます。石蔵、土蔵、煉瓦蔵など様々な形式の蔵が点在する他、店として活用している蔵や内部に座敷がある“座敷蔵”なども古河市の見所の一つです。

また、市内に数少ない“国登録有形文化財”の豪勢美術家蔵、旧坂長本店、旧世蔵・袖蔵、電屋番事（旧飯島家住宅、旧飯島製糸煉瓦番倉）なども見逃せない歴史の建築物です。

蔵は注意深く観察してみると、作り手のこだわりや匠の技を随所に見つけることができますので、全体だけでなく、細部にも目を向けると蔵の楽しみ方もっと増えるはずです。

裏面には、古河駅西口地区の蔵を中心とした“てくてくお散歩ルート”を載せていますので、古河の蔵や建築物を歩いて遊んでみてください。

煉瓦づくりも注目

古河市内を歩くと、そこかしこに煉瓦が使われているのにも気づくはずです。煉瓦は風雪に強く、隙の狭いことで思川、船辺の土を利活用して煉瓦が作られたことから、古河の建物や路面など様々なに使われたとされています。

古河城を移築した



旧坂長本店 MAP-B-0-1

蔵の中で体験し座敷蔵



旧坂長本店 MAP-B-0-2

江戸時代の名残りを残す



旧坂長本店 MAP-B-0-2

古河の歴史 自然景観

古河の自然景観

古河駅周辺には古河総合公園や渡良瀬遊水地をはじめ多くの自然景観があります。

古河総合公園は、他ではなかなか見ることのできる美しい約2000本のつばきや桜や約2000年前のハスの実を景観させた大貫ハスがあり、多くの人々に人気があります。

また、古河駅から西に約1.5km離れた場所にある渡良瀬遊水地では、数種が広大なヨシ原とハート型の沼によるのどかな自然風景を見ることができ、その立地性を活かしたスポーツやイベント開催なども行われており、とても楽しめるスポットとなっています。

緑路沿いは、“四季の道”と呼ばれ、年輪を通して四季折々の樹木や花々が楽しめる道があり、ジョギングや散歩など、子供から大人まで多くの市民の憩いの場として利用されています。3月から4月にかけての桜の開花期には見事な花を咲かせ、あ花見を楽しむ人で賑わいます。

その他にも、八幡神社の大観音や霊神社の大ケヤキ、小高宮の大ケヤキなども古河の見所の一つです。

古河で自然から楽しむ

渡良瀬遊水地



渡良瀬遊水地 MAP-A-0-2

日本一の花桃の里

花桃



MAP-A-0-1

四季の道



MAP-B-0-2

2000年前の様子を再現した

大貫ハス



MAP-A-0-1

古河歴史博物館

MAP-B B-4

平成2年(1990)に、古河城址跡地に古河の文化遺産「黒島史料洋学」、「古河の歴史」、「古河の文人たち」の3つのテーマに分けて展示されているほか、科学教室の開催も行っていきます。平成4年(1994)に日本建築学会賞、平成8年(1996)に公共建築賞を受賞。



古河文学館

MAP-B B-4

茨城県内の文学館として、平成10年(1998)に開設しました。館内には現在活躍中の作家や詩人をはじめ、古河ゆかりの作家、作品を中心に展示されています。また、サロンや講座室等があり、市民によるコンサートや演劇等も使われているなど、芸術文化の発信地としての役割を担っています。



篆刻美術館

MAP-B B-3

大正9年(1920)に建築された三層建ての石蔵を改装して、日本で初めての篆刻専門の美術館として平成3年(1991)に開設しました。館内は、日本を代表する現代作家や、日本・中国の歴史的作家の作品が展示されています。土・日・祝日限定で予約をすれば、大人1,200円、小学生500円で篆刻体験をすることができます。



日本初体験
できます

文化施設利用案内

※総観光券(600円)もあります。

施設名	古河歴史博物館	古河文学館	篆刻美術館
営業時間	9時~17時(入館は16時30分まで)		
休館日	月曜日、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日(毎月第4金曜日)		
入館料 (団体は20人~)	一般400円、団体300円 小中高生100円	一般200円、団体150円 小中高生50円	
電話番号	0280-22-5211	0280-21-1129	0280-22-5611



土井利位

[1789-1848]

古河藩土井家1代藩主。寺社奉行、大阪時代、老中百座など様々な幕府の要職を歴任。また、学問を好み、雪の結晶を観察し、雪の模様をたしなました。約20年わたる雪の観察の結果、計183種類の雪華が認められた「雪華図説」、「続雪華図説」を刊行しました。

だいとしつ

[1785-1859]

古河藩主土井利位、利位の2代に仕えた江戸家老。若い頃からオランダに興味を持ち、様々な蘭学の勉強に励みました。地理学にも長けており、「新訳和蘭全図」や「日光駅路里程之表」などを著しました。市内には家石が晩年を過ごした鷹見泉石記念館があります。

たかひ せんとく



鷹見泉石



河金剛隆寛

[1831-1889]

幕末から明治にかけて、特異な面風で活躍した日本画家。浮世絵と狩野学を学び、画業を興進させている。伝統的な絵画から戯画まで幅広く描きました。「秘秋葦園図」、「山姥図」、「旅籠合戦絵巻」など数多くの作品を残し、海外でも高く評価されています。

かわね きょうざい

[1837-1913]

幕末から明治・大正にかけて日本畫壇に名声を馳せた女流画家。江戸に出て、多くの文筆家や木戸孝豊から政治家とも交流していました。子どもの頃から負けん気が強く又な性格を持っていたと言われています。画室の「鏡水草堂」は平成22年(2010/12)に閉館。

あくら せいの



奥原晴湖



永井路子

[1925-]

東京生まれ。間もなく母親の郷里である古河に遊び、結婚するまでの20年間を過ごしました。名畫ある様々な賞を多数受賞した歴史小説家。市内にある永井路子旧宅は現在古河文学館の別館として、永井路子関連の写真や小説などが展示されています。

ながい りくぞう

古河の七福カレーめん

古河の七福カレーめんとは

歴史ある古都「ミュージアムタウン古河」が、食であってなにして楽しめる美味と香りの組み合わせです。

唐子子取最高日本の企業と、商業の街の歴史を担ってきた飲食店とで、新名物「古河の七福カレーめん」を生み出しました。

七福カレーめんの条件は、地元で調合されたカレー粉と七福の名から取った「七福」の食材を使うこと2つです。古河に菜なら、是非一度食べてみて下さい。

なお、裏面のマップには下記店舗は全て掲載しておりますので、詳しくは七福カレーめん専用パンフレットをご覧ください。



右のほり旗のあるお店が目印!

ここに行けば、古河の七福カレーめんを食べることが出来ます。

店名	位置	営業時間	電話番号
いつか	MAP-B B-2	11時~20時 火曜定休	0280-22-3975
牛子山山家 (レストラン山家)	MAP-B B-2	11時~14時、14時~21時 年末年始休	0280-22-0226
cafe LIFE (カフェ ライフ)	MAP-B B-2	12時~14時、14時~20時 月曜定休	0280-32-4713
餃子の王将	MAP-B B-2	11時~19時、19時~21時 無休	0280-32-3615
手打そば処 三嶋屋	MAP-B B-3	11時~21時 木曜定休	0280-32-0567
クレバット	MAP-B B-3	10時~20時 火曜定休	0280-32-0869
タビタビ屋	MAP-B B-3	11時~20時 日、祝日定休	0280-31-7611
食楽軒	MAP-B B-4	11時~19時、19時~23時 月曜定休	0280-33-8634
和食 永代	MAP-B B-4	11時~19時、19時~21時 無休	0280-32-0394
古河市観光協会 唐草	MAP-B B-4	11時~21時 月曜定休	0280-22-0330
手打そば処 中野屋	MAP-B B-2	11時~20時 水曜定休 月曜日休	0280-32-1776
唐焼屋 虎侍	MAP-A B-1	12時~2時、4時~22時	0280-32-1761
土屋 大楽	MAP-A B-2	11時~20時 月曜定休	0280-32-4547
中華料理 喜楽園	MAP-B B-4	11時~22時 無休	0280-33-6161
手打そば処 徳栄	MAP-A B-2	11時~15時、17時~22時 月曜定休	0280-32-3526
唐焼料理 香翠		11時~14時、14時~21時 月曜定休	0280-31-0165
手打そば処 賢平		11時~20時、2時~22時 水曜定休	0280-32-8955
土屋 大和堂 静		11時~14時、14時~22時 水曜定休	0280-46-0251
新橋		11時~14時、14時~21時 月曜・第3火曜定休	0280-32-2321
三和やみやち		11時45分~20時 木曜定休	0280-79-3700

エリアの外の七福カレーめん専用MAPを下記URLをご覧ください。

特産・行事

特産



〔茨城県黒井戸産地産指定〕 〔茨城県水きね産地産指定〕

年間行事

春	3月・4月・5月	秋	9月・10月・11月
古河桜まつり(3月20日~4月5日)	古河開園祭・ドマンカ祭り(10月第2土曜・日曜)	古河菊まつり(10月27日~11月23日)	三和産栗栗・きんさんまつり(10月第3土曜)
中田元代太々神楽(4月中旬) / 県指定文化財	古河よかんべまつり(11月第1土曜・日曜)	女ごっこ(11月中旬) / 市指定文化財	櫻桃祭り神楽(11月下旬)
大和元代太々神楽(4月中旬)	黒野新田御神楽(7月下旬) / 市指定文化財	古河夜火大会(6月第1土曜)	古河提灯祭り(12月第1土曜)
夏	6月・7月・8月	古河夜火大会(6月第1土曜)	古河七福めぐり(12月第2日曜)
夏祭りと振盃ばやし(7月上旬~中旬) / 県指定文化財	古河夜火大会(6月第1土曜)	古河越前まつり(7月最終土曜)	
黒野新田御神楽(7月下旬) / 市指定文化財	古河越前まつり(7月最終土曜)	古河越前まつり(7月最終土曜)	
古河夜火大会(6月第1土曜)	古河越前まつり(7月最終土曜)	古河越前まつり(7月最終土曜)	
古河越前まつり(8月14・15日)			

冬

12月・1月・2月



天安3年(859)横、出雲大社からの祭神を分けたとされ、古河付近の移鎮守で、田づくし、職業の守り神の中心になった神社。

源頼政の首を取ったという墳墓を、土井利益が神社として創建。井内郷政邸にあって、渡良瀬川に橋に伴い、現在地に移転。

文安3年(1446)足利成氏が鶴岡八幡宮を勧請して城内に創建。その後、土井利勝が古河城の鬼門除けとして現在地に移転。

もともとは、田中正造ゆかりの地である「谷中村」にあったが、渡良瀬川の改修工事によって現在地に移築した神社。

真宗宗善山麓。明治2年(1493)に足利成氏が古河城の鬼門よけとして、鎌倉の長谷寺から勧請したもので、日本三大長谷観音の一つ。

浄土宗。文禄4年(1595)に古河城主小笠原康政が開創した寺。寺宝として開創祈願造極大尊菩薩や秀歌の供養筒などがある。

MAP-B-a-1

MAP-B-a-3

MAP-B-c-4

MAP-B-b-1

MAP-B-b-4

MAP-B-b-2

凡例

倉庫・建築物	文化施設	自然観察
神社	寺院	七福神
史跡	カレーめし店	馬車模様
ゴルフ場	見どころ案内所	駐車場
トイレ	石畳の道	桜並木

わくわく回遊ルート

— てくてくあすめルート — 爽快自転車ルート
— 七福神招福めぐりルート 高 ← 低 坂道表示

古河の歴史と高橋

マップ内土地の高橋は古河の歴史と密接に関係しています。マップでは色の濃淡で高橋を表すと共に、以下の3つの歴史ゾーンを表記しています。

昔の歴史ゾーン

古河城跡 古河城城跡 旧邸家屋敷

(注)表記部分はかつてのもので、現在の土地利用とは一致しません。



七福神招福めぐり

古河駅西口地区には七福神を祀る10箇所の寺社等があり、徒歩で約2時間めぐる事ができるコースが設定されています。毎年1月第2日曜日は大行事として盛大に行われています。

三神町稲荷神社の福祿寿

- | | | |
|---------|------|-----------|
| 秋葉神社 | 風沙神天 | MAP-B-a-3 |
| 大聖院 | 弁財天 | MAP-B-a-3 |
| 神明宮 | 大黒天 | MAP-B-c-4 |
| 蛭子神社 | 恵比寿 | MAP-B-c-4 |
| 三神町稲荷神社 | 福祿寿 | MAP-B-b-4 |
| 正定寺 | 弁財天 | MAP-B-b-2 |
| 福寿稲荷神社 | 寿老人 | MAP-B-b-2 |
| 徳星寺 | 弁財天 | MAP-B-b-1 |
| 瀧下家 | 大黒天 | MAP-B-c-1 |
| 諏訪八幡宮 | 布袋尊 | MAP-B-c-3 |

まちなかのあついに活用下さい！

観光ボランティアガイド協会
TEL 0280-30-3434

街の見どころ案内所

古河駅内に観光案内所がありますので、お気軽にお尋ね下さい。事前にお申し込みいただければ、無料古河列の冊子を案内致します。

古河市内の見どころ・味わいどころ・楽しみどころをご説明致します。上の看板のあるお店にお気軽にお尋ね下さい。

古河公方館跡 **徳源院跡** **旧中山家住宅** **旧飛田家住宅**

古河公方足利成氏が古河にいたときの別館。講堂御所・講堂御所とも呼ばれ、旧御所沼に突き出た半島の中央部にあたる。

臨濟宗鎌倉円覺寺の末寺で、永仙院・松月院とともに古河公方足利家歴々の寺院。公方家の女性にゆかりのある寺院とされる。

岩井市(現坂東市)の中山太郎氏より寄贈され、現在地に移築。建築年代は延宝2年(1674)頃と推定され、県指定文化財。

県内の曲がり家形式の農家の中でも最も古いもので、国指定重要文化財。建築年代は18世紀前半と推定されている。



清濁宗。寛永3年(1626)に古河城主永井直勝が開基した菩提寺で、直勝の肖像画や永井家の遺品他、多くの文化財が存在する。

MAP-B a-2



浄土宗。寛永10年(1633)に古河城主土井利勝が開基した寺。現本堂は天保3年(1832)に土井利位の再建したもの。

MAP-B b-2



篤見家石が最晩年を送った武家屋敷を記念館として公開。敷地内には中国版産の「織刺(古河市指定天然記念物)」がある。

MAP-B b-4



平成7年(1995)3月に開館。1階は古河ゆかりの作家の美術作品を展示し、2階は市民ギャラリーとして貸し出している。

MAP-B b-3



永井路子さんが約20年前ごした家を修復し、一般公開している。内部には永井さんの青春時代の写真や作品等を展示。

MAP-B b-3



埼玉県熊谷市にある奥原清湖の書畫を現在地に移築。奥原清湖の作品を多く展示しており、平成22年(2010)2月に開館。

MAP-B b-4



万葉歌碑(明治)



「麻久良我の許我の涙のから楢の音高しもな豪なへんゆゑに」(巻十四)。揮毫者は豪家の土井子華。

MAP-B a-1

万葉歌碑(昭和)



「逢はずして行かば惜しげも麻久良我の許我濡く船に若も逢はぬゆゑに」(巻十四)。揮毫者は書家の大久保兼洲。

MAP-B a-3

古河城街茶屋跡



将軍をもてなすための御茶屋を遺したことがはじまりといわれる。将軍が古河城へ向かうお成り道があった場所。

MAP-B a-4

伊達中右衛門邸茶屋跡



文久元年(1861)に建てられた石造りの常夜灯型式の遺構。鍛冶町通りの拡張工事に伴い、もとの場所に戻される予定。

MAP-B a-2

若杉鳥子文学碑



若杉鳥子は大本正から昭和にかけて活躍した古河出身のプロレタリア作家。鍛冶町通りの一角に「薄紗」の一角が刻まれている。

MAP-B a-2

田中正造遺徳の碑



田中正造は足尾銅山鉱毒問題を被害農民の立場に立ちて戦い、明治天皇へ進訴した。その忠状が刻まれた碑。

MAP-B a-1